

# ニュースレター

No. 6  
2020.3



## 市民の誰もが安心して暮らせる国分寺市をつくりたい。

このニュースレターは、さまざまな分野の地域課題を共有し、一つひとつの解決に向け、連携して取り組んでいく、障害者地域自立支援協議会の報告をお届けするものです。自立支援協議会及び各専門部会は、第2期がスタートし、各委員の任期は、令和4年（2022年）6月30日までの3年間となります。今年度は、「地域生活支援拠点等に必要な機能の充実・強化」をテーマに、協議を重ねてまいりました。その進捗状況をお知らせします。

## 福祉人材の確保を急ごう

野澤和弘 毎日新聞社 客員編集委員

最近はどこへ行っても福祉業界で人不足の話が聞きます。グループホームを建てたものの働く人が確保できず利用者を迎え入れられない。ヘルパーが確保できないため、ALS（筋萎縮性側索硬化症）の人が人工呼吸器を付けるのを断念している…。

介護専門学校の入学者に対する2016年度（平成28年度）の定員割合は46%しかなく、介護施設で職員が「不足している」のは66%にも上るという調査結果があります。

厚生労働省の試算によると、医療福祉分野で働く人は2018年（平成30年）に823万人だったのが、2025年には930万人、2040年には1,070万人が必要となります。健康寿命が現在より3年以上延び、AI（人工知能）の導入が進めば、2040年ごろの必要な医療福祉職は926万～963万人へと圧縮できるそうですが、それでもまだ100万～120万人が足りないのです。

どこの業界も人不足かといえそうですがではありません。今、一部の製造業や金融業、マスコミでは50代を中心とした中高年のリストラが断行されています。不況で経営が苦しいために人員削減しているわけではなく、先々の産業構造の変化を見越しての人員整理や、AIなどによる省力

化を進めるために、社内で人件費の高い中高年層がターゲットになっているのです。働き方改革で非正規社員や若年労働者の待遇改善を強いられた経営者が、その原資を中高年の人件費に求めているという側面もあるでしょう。

いずれにしても、このままでは再就職先を求めてさまよう中高年層のことが社会問題になるのは間違いありません。

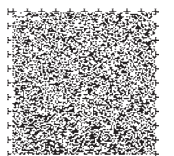
障害者福祉を担っている社会福祉法人やNPO法人の中には企業からの転職組があちこちにおいて貴重な戦力になっています。企業の特例子会社でも、なまじ臨床心理士や社会福祉士の資格を持った福祉のプロよりも、その企業でたたき上げてきた中高年退職組の方がはるかに戦力になっている例を私自身よく見ます。資格があっても障害者のことをわからない「専門職」はたくさんいます。しかも、彼らは企業のことを知らないで、勝手に企業になじむようと障害者にストレスをかけてしまうことが少なくありません。

それに対して、企業でのキャリアのある中高年は顧客対応や社内での難しい人間関係に対処してきた経験があるので、企業の方を変えて障害者の仕事をつくったり職場環境を改善したりすることができるのです。

福祉現場での仕事は新商品の開発と販路開拓、企業や地域社会との連携、職場のガバナンスの向上や職員研修の充実など多岐にわたります。福祉教育を受けてきただけの人よりも企業経験のあるベテランの活躍の場はたくさんあります。IoT（Internet of Things）やAIを導入して省略化を図るにしても、福祉職員の意識改革や知識・技術の習得を図ることが必要で、外部のコンサルに任せるだけでは新技術の導入と定着はうまくいかないと思います。

企業の早期退職者の福祉での再雇用を積極的に考えてみませんか？新たな社会課題の解決について福祉が役割を果たすことが求められていると思います。

人材確保は国の責任ばかりではありません。保育所の待機児童が深刻な自治体では、保育士の家賃補助などを独自に設けているところもあります。国分寺市も独自の人材確保に努めてはどうでしょうか。



### プロフィール のざわ・かずひろ

主な著書に、『なんとなくは、生きられない。』、『障害者のリアル×東大生のリアル』、『条例のある街』（ぶどう社）、『あの夜、君が泣いたわけ』（中央法規）、『廃墟の中の希望』、『なぜ人は虐待するのか』（Sプランニング）、『わかりやすさの本質』（NHK出版）など。

1983年早稲田大学法学部卒業、毎日新聞入社。東京社会部でいじめ、ひきこもり、薬害エイズ、児童虐待、障害者虐待などの報道に取り組む。2009年から論説委員（社会保障担当）を11年務め、2019年10月退社。現在は、一般社団法人スローコミュニケーション代表、植草学園大客員教授。ほかに、厚生労働省社会保障審議会障害者部会委員、内閣府障害者政策委員会委員、東京大学非常勤講師、上智大学非常勤講師など。

## 各専門部会より、最新レポート！

- ◆国分寺市障害者地域自立支援協議会の3部会員より、各専門部会の進捗状況をお届けします。
- ◆専門部会は、専門分野ごとに検討・協議を重ね、自立支援協議会の全体会に報告する役目を担っています。

### 相談支援部会 南千穂 社会福祉法人万葉の里 国分寺市地域活動支援センターつばさ 相談支援専門員

地域活動支援センターつばさで相談支援専門員として働いています南と申します。つばさでは、年齢や障害、疾病を問わず、計画相談を利用させていただいています。ご本人やご家族から、お話を聞かせていただいていると、時に出口が見えないような困りごとに出会います。そんな時、ご本人とご家族の思いを大切に、一緒に解決策を考えるようにしています。

解決策が見えないのは、資源のなさに起因していることもあります。私は自立支援協議会が重要な場だと思っています。相談支援専門員は、皆さまの大切なお話を伺い、そこから見えてきた地域課題を発信していく役割があります。それらを共有できる場が自立支援協議会です。

相談支援部会では、個々の困り事でもあり誰か一人だけの困り事でもない、「緊急時の対応や災害

時の対策」などについて協議をしてきました。また、「福祉人材不足解消にむけた人材の掘り起こし」も地域課題の一つだと認識しています。

今後の相談支援部会では、地域生活支援拠点の機能充実に向け、相談支援事業所が拠点の一つになるように検討を進めているところです。また、「意思決定支援と日常的な契約行為における支援」について、事例を集めて話し合っています。地域が豊かになり、少しでも安心できる暮らしの場を作っていけるよう歩んでいきたいと思っています。



### 就労支援部会 山内敦 社会福祉法人AnnBee ビーパス 理事

就労継続支援B型事業所 ビーパスにて管理者を務めます山内と申します。ビーパスでは、菓子製造・販売を主としていますが、平成29年度からは、農福連携の一環として取り組み始めた、乾燥野菜の製

造・販売も手がけています。市内の農家から各種アドバイスをいただきながら、野菜や果物の旬をのがさず美味しく提供できるように、勉強の日々をおくっています。障害のある方が、しっかりと働ける場があり、自信をもって働くことで、地域に向けさまざまな形で還元することができると思っています。

就労支援部会では、作業部会の一つ“国分寺障害者施設お仕事ネットワーク”が、11月に開催されたイベント“ヒューマンライツ・フェスタ東京2019”（東京国際フォーラム・地上広場）に参加し、各団体が製造する食品や物品を出展し販売を行いました。総売上は予想より厳しい結果でしたが、次回に向けて、また、他のイベント参加への準備やヒントをいただけたことを収穫として捉えています。

すでに動き始めている「物品販売ポータルサイト」の開設が、国分寺市の中で、個人や各団体がより強い連携がはかれる機能となり、各事業所が切磋琢磨し、より良い製品づくりへの後押しになれるよう進めていければと考えています。

### 精神保健福祉部会 石出美幸 NPO法人ケア・センターやわらぎ ケア・センターやわらぎ国分寺 主幹

※事業所内の異動に伴い、1月末に退任、後任に同事業所の清水真理子氏が部会員に指名されました。

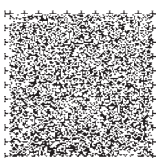
ケア・センターやわらぎ国分寺の主幹として事業所の取りまとめをしている石出と申します。当事業所は、障害福祉サービス（身体介護・家事援助・通院等介助・同行援護・重度訪問介護及び移動支援）の他、介護保険における訪問介護・居宅介護支援・認知症対応型通所介護事業所を併設する事業所です。

障害福祉サービスを利用される方の高齢化に伴い、最近では精神疾患を抱える方と関わるケースが多くなってきました。利用者やその家族が安心して住み慣れた地域で生活できるよう、「介護はプロに、家族は愛を」を合言葉に、日々活動しています。

今年度の精神保健福祉部会では「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に向けた協議、「長期入院者の現

状把握のためのアンケート調査」、また当事者の家族から直接話をうかがう機会を持ちました。家族の立場からの経験談では、本人が支援を受けるなかで、ヘルパーの言動に傷ついたという話をうかがい、心が痛みました。サービスを提供する者が、障害特性の理解のないままヘルパーを派遣することはあってはならないことです。ヘルパー教育についても考えさせられるお話でした。

長期入院患者の地域移行支援については、今年度実施したアンケートを活用し、課題の抽出・問題の明確化を図ることで早期実現が図れるよう、引き続き取り組んでまいります。





# 国分寺市障害者地域自立支援協議会

障害のある人もない人も、社会の一員として、互いを尊重し、支え合  
いながら、ともに生きがいを持っていきいきと暮らせるまちの実現へ

平成28年（2016年）10月に再編された「国分寺市障害者地域自立支援協議会」の全体会及び各専門部  
会委員の任期が、令和元年（2019年）6月30日で満了し、新たに第2期の委員が、同年7月1日付で委  
嘱されました。委員の任期は、「国分寺市障害者地域自立支援協議会設置要綱」第4条により、令和4年  
（2022年）6月30日までの3年間となります。引き続きよろしくお願い申し上げます。



第2期国分寺市障害者地域自立支援協議会委員



全体会議の様子

国分寺市公式ホームページから本協議会の概要をご覧ください。  
くらしの情報>障害者支援>協議会>国分寺市障害者地域自立支援協議会



「国分寺市障害者地域自立支援協議会」

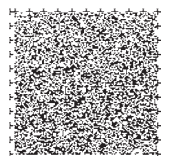
協議会は、年間テーマ「地域生活支援拠点等に必要の機能の充実・強化」を掲げ、国分寺における障害の  
ある方の地域生活を支援するための取り組みを進めています。全体会議の協議を受けて、各専門部会では、  
専門知識を持った支援機関が集まり、分野ごとに具体的な協議及び取り組みを行っています。

	全体会議	相談支援部会	就労支援部会	精神保健福祉部会
年間開催頻度	3回	4回	4回	4回
会議体規模	会長 1名 副会長 1名 委員数 20名	部会長 1名 副部会長 1名 部会員数 15名	部会長 1名 副部会長 1名 部会員数 11名	部会長 1名 副部会長 1名 部会員数 9名
事務局会議	3回 合同事務局会議1回	4回	4回	4回
連絡会、 作業部会、 連携研修など		<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援事業所連絡会（年12回開催）</li> <li>障害児通所支援事業所連絡会（年2回開催）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農福連携に関する協議</li> <li>国分寺障害者施設お仕事ネットワーク（年12回開催）</li> <li>就労移行支援事業所連絡会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援スキルアップ研修</li> <li>ネットワーク研修I（地域移行）</li> <li>北多摩西部圏域研修</li> </ul>

国分寺市障害者地域自立支援協議会の全体会議と各専門部会は、どなたでも傍聴できます。

令和元年度 第3回全体会	令和2年（2020年）3月27日（金）午後1時30分～	国分寺市役所 書庫棟会議室
-----------------	-----------------------------	------------------

※日程等は変更する場合があります。詳細は、協議会事務局までお問い合わせください。  
尚、市役所の国分寺市障害者地域自立支援協議会のウェブサイトからも確認できます。



## チャレンジ！自分の力を ためてみましょう ～市役所実習の紹介～

国分寺市では、平成22年度（2010年度）より、市役所実習を実施しています。

障害のある方で、就労能力がありながら、経験不足等の理由で就労につながらない方に対し、職場体験の場を市が提供しています。社会的マナーや体力向上、コミュニケーション力、就労への準備等を学ぶことを目的とします。

これまでの10年間に、約100名が実習を終え、就労につながった実績があります。



実習先は、障害福祉課はじめ、人権平和課、環境対策課、市内の図書館や公民館等で、印刷や製本、封入作業、その他業務のサポートにあたります。実際に働くことを想定し、勤務時間や職場に適した服装で、1日～3日間程、勤務をします。

実習後は、本人と就労支援センターの面談において、評価を行います。就労に向けての良い点（アピール、強み）や改善点を共に考える時間から、本人の就労意欲がグッと広がっていきます。地域で一生懸命に働く実習生の姿を見かけた際には、あたたかく見守っていただけたら幸いです。



右上記「国分寺市障害者週間行事」での実習の様子、イベントの案内係等

問合せ先：国分寺市障害者就労支援センター

電話：042-300-1500

※実習に際しては、上記センターへの登録が必要となります。

## 国分寺市制施行55周年記念 令和元年度 国分寺市障害者週間行事 開催の報告

去る令和元年（2019年）12月7日（土）に、障害者週間行事がcocobunji プラザのリオンホールで開催されました。恒例となる、社会福祉法人けやきの社主催の小学生作文コンクール優秀作品の朗読発表と本行事では初となる表彰式に続き、東京国分寺ロータリークラブ主催の障害児による作品を展示するニコニコアート展の表彰式も行われました。表彰式では教育長から挨拶をいただき、受賞者の満面の笑顔を見ることができました。受賞した皆さまおめでとうございます。

その後の講演会では、パラリンピック競技であるパラパワーリフティングの連盟会長と選手によるトークセッションがあり、実際にバーベルを上げる試技に、観衆の大きな拍手喝采がありました。選手の息遣いが伝わる迫力満点のパフォーマンスです。ぜひパラリンピックでも注目してください。セミナールームでは国分寺市スポーツ推進協議会委員指導のもと、パラリンピック競技の一つ、ボッチャの体験会も行われました。このような機会を通じて、一人でも多くの方が障害者の可能性を感じ、理解が進むきっかけになれば良いと思いました。

【国分寺市障害者福祉を進める会・坂田晴弘】



・国は、毎年12月3日～9日の1週間を障害者基本法で「障害者週間」と位置づけています。各自治体は市民に対して、障害者の理解を促進する行事等を実施することになっています。国分寺市は、「国分寺市障害者福祉を進める会」と共催で、本行事を開催しています。

## 地域福祉コーディネーターのご紹介

**地域福祉コーディネーターとは：**少子高齢化や核家族化、地域のつながりの希薄化など、地域社会を取り巻く環境の変化による福祉ニーズの多様化、複雑化へ対応するために、令和元年度（2019年度）から市の委託事業として国分寺市社会福祉協議会に配置されました。どこに相談したらよいかわからない困りごとや地域の気になること、地域でやりたいことなどの相談に幅広く対応します。

<気軽に地域福祉コーディネーターへ相談してください>



東地区担当  
川合真由美

地域福祉コーディネーター東地区を担当しております。川合真由美です。今年度は、困りごとの相談をうかがったり、神社を活用した地域づくりや地域会議等に参加をしています。そのたびに、地域のつながりや顔の見える関係の大切さを感じています。今後も地域へ出向き、困った時に「助けて」と言い合える地域づくりのお手伝いができるといいな、と思っています。どうぞよろしくお願い致します。



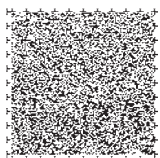
西地区担当  
川端真紀

地域福祉コーディネーター西地区を担当しております。川端真紀です。今年度は、「地域をもっと知る！」をモットーに日々動いています。各方面のイベントや懇談会、井戸端会議などに参加し、地域の課題、個別の心配ごとなどをうかがっています。どのようなご相談でもまずは受け止め、解決までの糸口と一緒に考えていければと思っています。市内で見かけた際には、声をかけてくださると嬉しいです。

問合せ先：国分寺市社会福祉協議会 まちづくり支援係（ボランティア活動センターこくぶんじ内）

電話：042-300-6363

事務局編集部  
せん。  
願ってやみま  
げられたらと  
り「ハ」とつな  
る「まちづく  
る」の創造の  
探求がなされ  
さを知り、それを強味にして、平和や生  
き方の創造の  
探求がなされ  
る「まちづく  
り」ハとつな  
げられたらと  
願ってやみま  
せん。  
事務局編集部



編集後記

今夏、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。国分寺市は、ベトナム国のホストタウンとなっており、7月には、聖火リレーが本市を走行します。多くの市民が参加できる機会になることが期待されます。

さて、IOC（国際オリンピック委員会）の憲章には、「オリンピックの開催都市ならびに開催国に遺産を残すことを推進する」を謳っています。その意図として、競技大会後に残る有形無形のレガシー、つまり社会的遺産（ソーシャル・キャピタル）として、そのレガシーを次世代に引き継いでいくこととしています。

東京2020大会後、どのようなレガシーを、国分寺でも継承できるでしょうか。これを機に、国分寺の優れた点や良さを知り、それを強味にして、平和や生

## 発行

国分寺市障害者地域自立支援協議会ニュースレター No.6

令和2年（2020年）3月発行

発行：国分寺市障害者地域自立支援協議会

編集：国分寺市障害者地域自立支援協議会 事務局

国分寺市福祉部障害福祉課

〒185-8501 東京都国分寺市戸倉1-6-1

☎：042-325-0111 FAX：042-324-6831

国分寺市障害者基幹相談支援センター

〒185-0002 東京都国分寺市東戸倉2-7-26 KOCO・ジヤム2階

☎：042-320-1300 FAX：042-313-8823

印刷：社会福祉法人東京ココニー